



日本建築学会関東支部 七〇周年記念誌

七〇周年記念誌の刊行に当たって

日本建築学会関東支部は一九四七年に設立され、本年度で七〇周年を迎えることができました。この記念すべき年度に支部長の役に就く機会に恵まれ、たいへん光栄であるとともに歴史の重さに大きな責任を感じております。七〇年間の歴史を記録から振り返りますと、支部の目的である「学会員各位と学会をつなぎ、有益な情報提供と会員間の交流を行うこと」としての役割を果たすために多くの先輩や関係者の絶え間ない努力があったものと、あらためて感謝と御礼を申し上げる次第です。われわれは継続されてきた過去の輝かしい功績を正しく理解し、それを未来に継続させていく使命を与えられております。そのため、この周年行事を大切に、記録として残し、将来に正しく伝えていく必要があります。

先の六〇周年(支部長 故・片桐正夫 日本大学理工学部建築学科教授・当時)の節は「六〇周年記念講演会記録集」の刊行を行っております。

その後には建築界に多大な影響をもたらす出来事として、二〇二〇年に二度目の東京オリンピックの開催が決定されたことが挙げられます。一九六四年の東京オリンピックの開催当時は国が高度成長期の真っ只中にいた時代であり、オリンピックの開催が建築界に与えた影響は非常に大きいものでありました。

そこで、設立七〇周年記念事業として、二〇二〇年に開催される東京オリンピックに焦点を当てた企画を実施することとしました。その内容は、①一九六四年開催の東京オリンピックの時代に設計・建設された代表建築物の見学会による検証、②それをもとにして建築界の現在を概観し、来る二〇二〇年の東京オリンピックは建築界にどのような影響を及ぼし、建築、都市の未来はどう変わっていくべきなのか、③これらの見学会やシンポジウム、さらには関東支部の歴史、活動実績を纏めた記念誌発行の三つを将来に足跡として残し継承することとしました。七〇周年記念事業としては、盛りだくさんな内容になりましたが、各事業にご協力いただきました支部役員、支所長、支部事務局の皆様、そして、各企画にご協力いただきました関係各位に心より謝意を申し上げます。

最後に、この七〇周年記念事業の成果が、将来にわたって貴重な資料として活用され、さらに将来を示唆するものとなることを願うとともに、関東支部が今後ますます発展されることを祈念し、刊行の挨拶とさせていただきます。

二〇一八年三月

関東支部長 井上勝夫



シンポジウム編

シンポジウム概要 5

シンポジウム 6

見学会編

見学会概要 18

パレスサイドビルディング 19

国立代々木競技場 31

神奈川県立音楽堂 43

埼玉会館 33

山梨文化会館 67

茨城県立県民文化センター 79

栃木県立美術館 91

群馬県立近代美術館 103

大多喜町役場庁舎 115

沿革編

年表 128

沿革 130

提案競技 137

学びやすい構造設計 140

建築のみかた 144

関係者・文責

歴代役員 148

事務局 151

七〇周年記念事業WG 151

目次

シンポジウム編



東京オリンピックの時代と建築 ポスト一九六四から ポスト二〇二〇へ

日本建築学会関東支部七〇周年記念事業シンポジウム
シリーズ建築のみかた 第九回



建築の社会への影響と学会の役割について

一九六四年の東京オリンピックの時代は高度経済成長の真っただ中であった。そのなかで著名な建築家が名作を残し、今でも各地のランドマークになっている。建築は時代を表し、社会をリードしてきたが、オリンピックという一大イベントがその大きなきっかけになっていたのでないだろうか。このシンポジウムでは、建築が一九六四年前後の時代にどのような影響を与え、二〇二〇年を迎えるこれからの時代にどうあるべきなのか、また学会はそのなかでどういう役割を担っていくべきか、一九六四年以降に生まれた三人の論者の基調講演をもとに議論をすることを目指した。

一九六四年の東京オリンピック前後の建築や都市にまつわる時代の高揚感については今でもよく話題に上る。しかし、二〇二〇年のオリンピックを前に、われわれにはそのような高揚感が感じられない。はたしてこのままやりすごしてよいのか。学会として、再びオリンピックを迎えるこの時代に、建築や都市を取り巻く社会環境を見つめ直し、私たちの建築がどのように未来へと受け継がれていくのかを考えるべきではないだろうか。

ポスト二〇二〇年の時代へ向けて

シンポジウムに先立って、四つの時代区分を設定した。

- 一、一九六四年東京オリンピック前後の時代
- 二、ポスト一九六四年の時代
- 三、二〇二〇年東京オリンピック前の時代（現在）
- 四、ポスト二〇二〇年の時代

「一九六四年東京オリンピック前後の時代」には、オリンピック開催を契機にわが国の建築が大きな発展を遂げた時代であり、「ポスト一九六四年の時代」はその建築やインフラが日常のなかに引き継がれていった時代であっただろう。そして、二回目のオリンピック開催を迎える「二〇二〇年東京オリンピック前の時代」。日本への観光客が急速に増加し、都市再生やストック活用、地域のブランディングや地域間競争が叫ばれる時代になっている。そして、その先の「ポスト二〇二〇年の時代」はどこへ向かおうとするのだろうか。このシンポジウムではそれぞれの時代を意識しながら、歴史、情報、メディア、市民などを論点に議論が展開された。

開催日 2017年11月27日
主催 日本建築学会 関東支部
会場 建築会館ホール
司会 山中新太郎(関東支部総務幹事)

登壇者略歴

山崎綱介 やまざき・たいすけ

建築史家

1967年 埼玉県生まれ
1992年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
1998年 東京工業大学工学部建築学科助手
2008年 千葉工業大学工学部建築都市環境学科准教授
2013年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻准教授

藤村龍至 ふじむら・りゅうじ

建築家

1976年 東京都生まれ
2002年 東京工業大学理工学研究科建築学専攻修士課程修了
2003年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程
2005年 藤村龍至建築設計事務所設立
2010年 東洋大学理工学部建築学科専任講師
2016年 東京藝術大学美術学部建築科准教授、RFA主宰

平塚桂 ひらつか・かつら

建築ライター・編集者

1974年 静岡県生まれ
2001年 京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻修了
2000年 たかぎみ江と「ぼむ企画」を結成。
京都のインテリア店併設書店店長などを経て、
東京を拠点に『Casa BRUTUS』『AXIS』などで
建築関係の記事の取材執筆、イベント企画等に携わる。
2012年より京都に拠点を移し、建築関係の書籍やパンフレット等の編集・制作を行う。

註

写真 横浜市庁舎、世田谷区庁舎、山梨文化会館、京都会館 撮影：山崎綱介
大阪ステーションシティ、大船渡市民文化会館 撮影：藤村龍至
日本からアジアへ伸びる「希望の軸」 撮影：新津保建秀

資料 神戸港ポートアイランド 出典：神戸市臨港開発局「神戸の埋立」1967

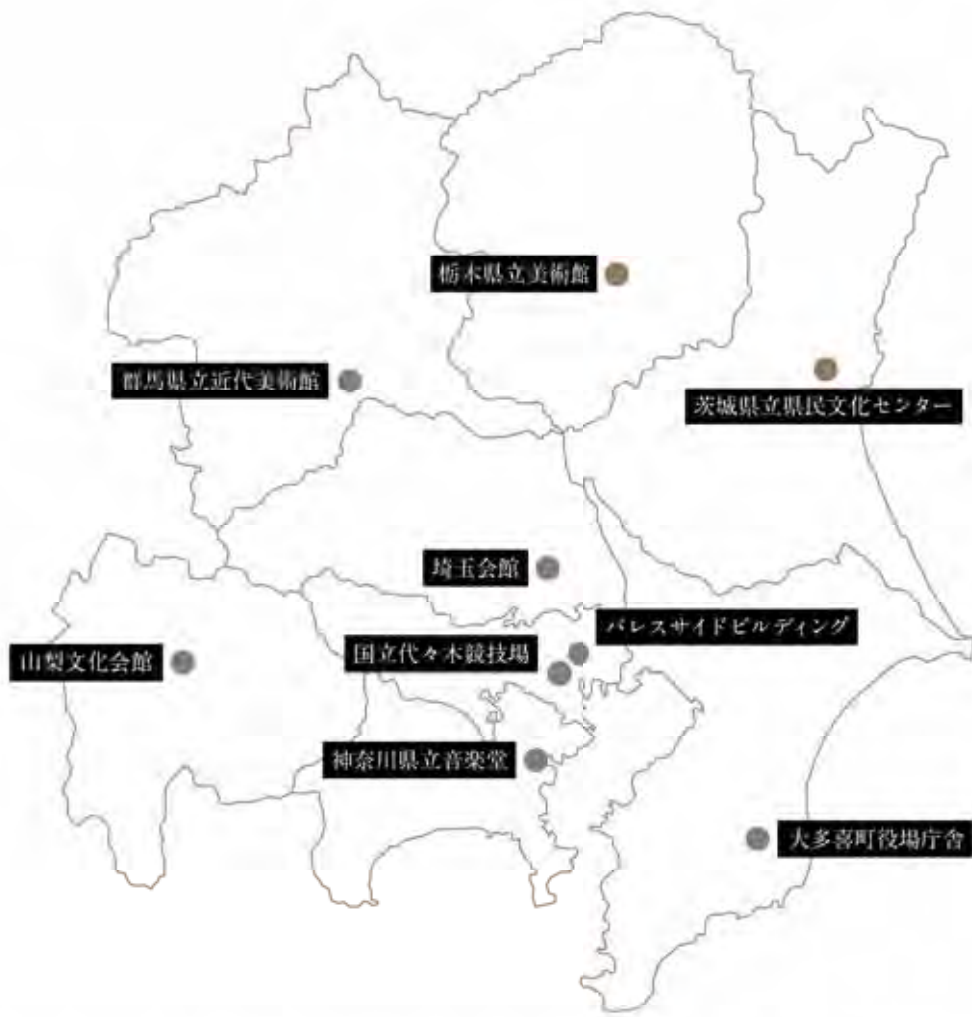
図版 戦後建築掲載数推移のグラフ、戦後建築の紹介回数 作成：平塚桂

見学会編

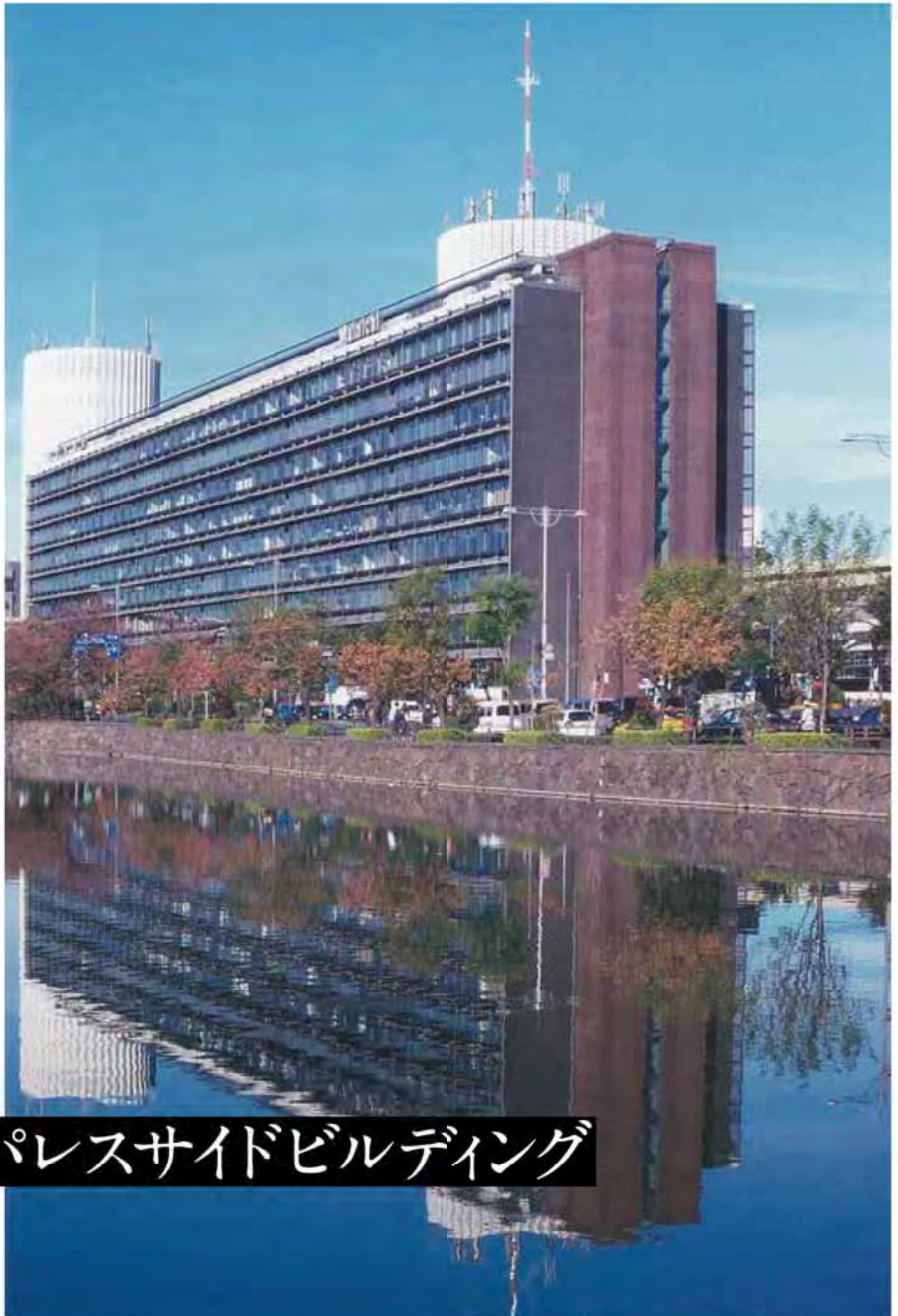


〔開催主旨〕

東京オリンピックピクの時代の名作を見る



二〇一六年度から開催を始めた「シリーズ名作をみる」と題した見学会を、日本建築学会関東支部七〇周年を記念するのにふさわしいイベントとして規模を拡大して企画した。東京で二カ所、各支所で一カ所、合計九カ所の見学会を開催した。「東京オリンピックの時代と建築——ポスト一九六四からポスト二〇二〇へ」というシンポジウムのテーマに合わせたかたちで見学する作品を選定したが、支所ごとの思いもあり、実際にはテーマの年代から少し幅をもたせている。しかしそれぞれの作品に共通しているのは、今なお地域から愛されている建築であり、時代にあわせた改修を行いつつも大切に使われ続けているという点である。それを感じてもらい、次の半世紀を生き続ける建築やその思想に想いを馳せる一助となるように、記録には竣工当時の姿と現在の姿、そして改修の履歴などを記した。また施設により見学会のかたちは少しずつ異なるが、当時の記録、当時を知る人、施設を使い続ける人からの言葉も、その使い続けた履歴と想いを伺い知るための資料として残せるよう取りまとめた。



パレスサイドビルディング

見学会概要

開催日 2017年6月16日
主催 日本建築学会 関東支部
司会進行 杉山俊一
(日本建築学会関東支部事業企画運営委員会委員)
中村晃子
(日本建築学会関東支部事業幹事)
参加者 43名

説明者略歴

小倉善明 おぐら・よしあき (上：写真右)

1937年 東京生まれ
1962年 東京大学工学部建築学科卒業
日建設計工務(現・日建設計)入社
1966年 米国ハーバード大学大学院留学
1968年 日建設計に復職。取締役、常務取締役、顧問を歴任

三浦明彦 みうら・あきひこ (上：写真左)

1939年 京都生まれ
1962年 京都工芸繊維大学卒業
日建設計工務(現・日建設計)入社
理事設計室長、日建ハウジングシステム
常務取締役を歴任

小林紳也 こばやし・しんや (上：写真中央)

1936年 権太生まれ
1962年 早稲田大学第一理工学部建築学科卒業
日建設計工務(現・日建設計)入社
設計監理部長、理事経営情報室長、構造設計室室長を歴任

註

P19、P20、P21 写真提供：パレスサイド・ビルディング50年史
資料・図版・写真 提供：日建設計



国立代々木競技場





緑の量塊を増した明治神宮-代々木公園、高層化が進む都市の変貌を前にした、現在の国立代代木競技場 (2017年撮影)

見学会概要

開催日 2017年6月28日
 主催 日本建築学会 関東支部
 司会進行 坂井和秀(日本建築学会関東支部事業幹事)
 南知之(日本建築学会関東支部常議員)
 参加者 52名

勉強会配布資料

「屋内総合競技場本館竣工記念」冊子より抜粋版

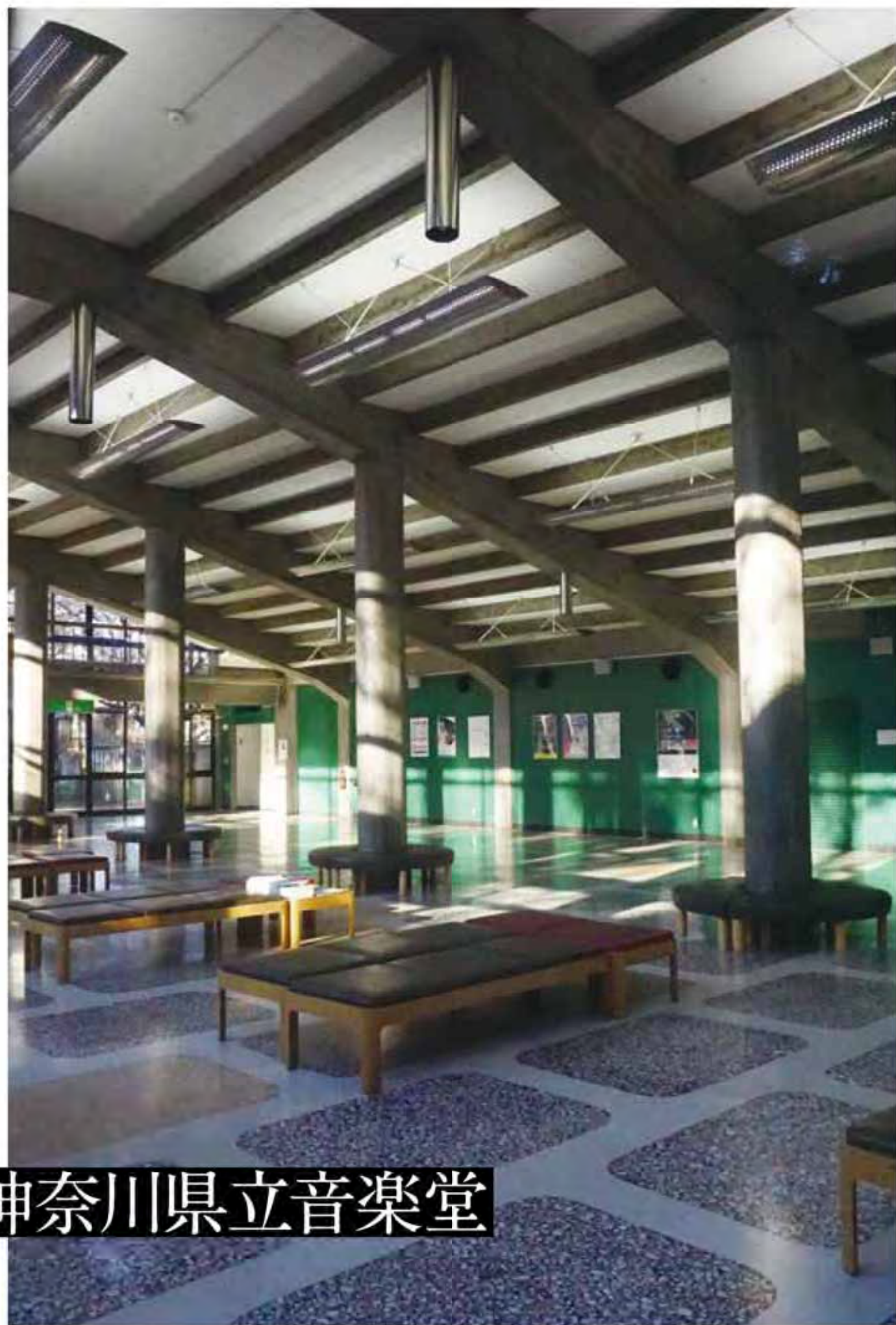
記録映画の上映『屋内総合競技場本館-建設技術記録-』

製作 岩波映画製作所
 企画 清水建設

註

建設当時の写真・資料：清水建設





神奈川県立音楽堂



現在の音楽堂ホール内観

見学会概要

開催日 2017年8月15日
 主催 日本建築学会 関東支部 神奈川支所
 司会進行 青木恵美子(日本建築学会関東支部神奈川支所幹事)
 参加者 119名



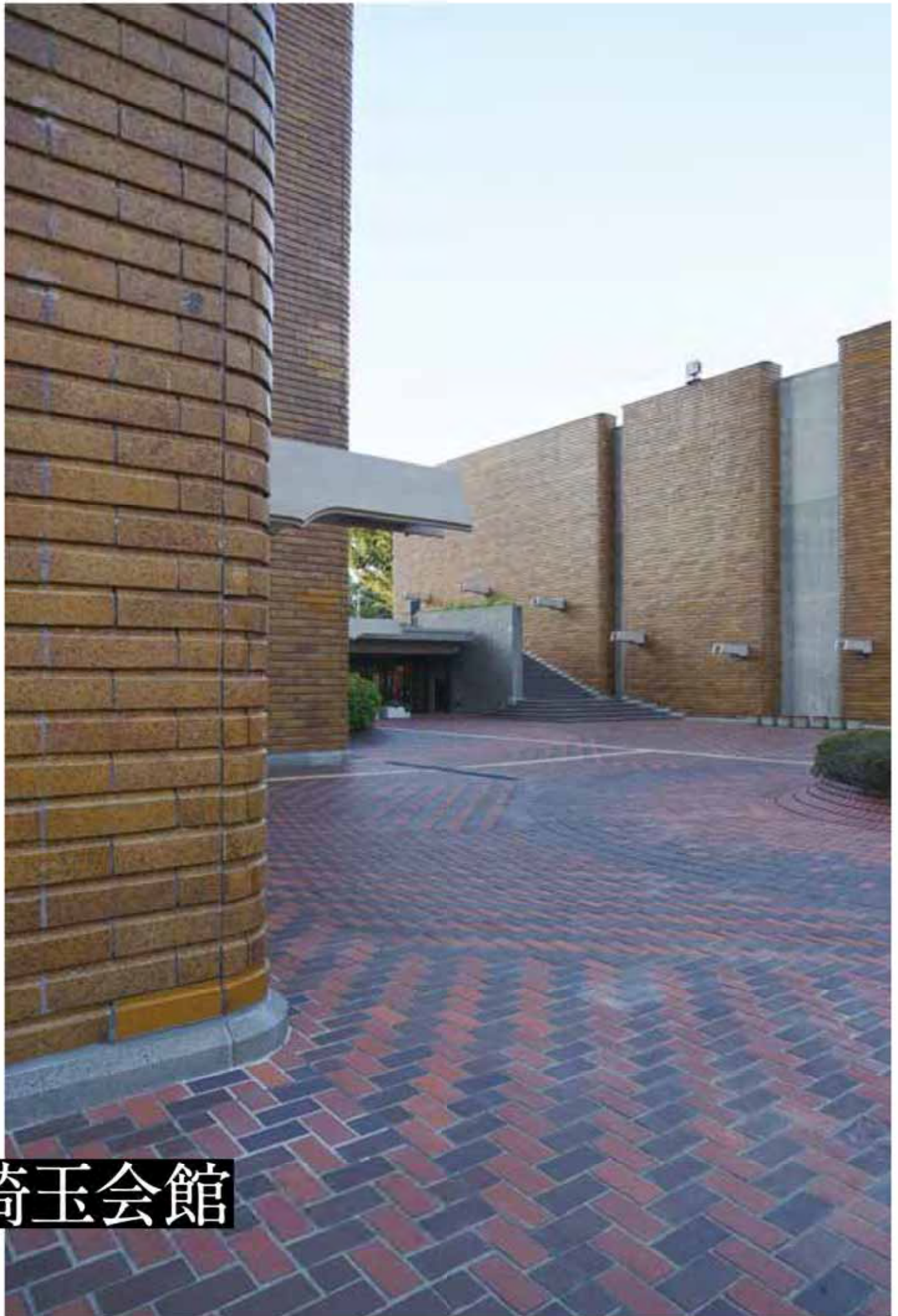
説明者略歴

松隈洋 まつくま・ひろし (写真左)
 1957年 兵庫県生まれ
 1980年 京都大学工学部建築学科卒業、
 前川國男建築設計事務所入所
 2000年 京都工芸繊維大学助教授
 2008年10月教授、現在に至る。工学博士(東京大学)。
 専門は近代建築史、建築設計論
 2013年5月よりDOCOMOMO Japan代表
 著書に『建築の前夜 前川國男論』
 『ル・コルビュジエから遠く離れて』など
 「生誕100年・前川國男建築展」(2005年)の他、
 多くの建築展企画に携わる
 文化庁国立近現代建築資料館運営委員

伊藤由貴子 いたう・ゆきこ (写真中)
 2000年 神奈川芸術文化振興財団
 2004年 同財団プロデューサー
 2009年 神奈川県立音楽堂館長
 2017年 神奈川芸術文化振興財団
 事務局次長兼文化プログラム調整担当部長
 著書に『日本音紀行——音の風景をたずねて』
 (2005年)

村島正章 むらしま・まさあき (写真右)
 1985年 神奈川県庁入庁
 2013年 現職(施設整備課長)

註 資料提供 日本建築学会神奈川支所



埼玉会館



見学会概要

開催日 2017年8月24日
主催 日本建築学会 関東支部 埼玉支所
司会進行 山中新太郎(日本建築学会関東支部総務幹事)
参加者 51名

説明者略歴

橋本功 (はしもと・いさお) (写真上)
1945年 神奈川県生まれ
1970年 日本大学理工学部建築学科卒業
前川國男建築設計事務所入所
1994年 取締役役に就任
2000年 前川建築設計事務所代表取締役に就任し、現在に至る

註

竣工時写真 撮影：大橋富夫
人物写真(前川國男 1983年) 撮影：廣田治雄
資料「屋根伏せ図」「手描きスケッチ」 提供：前川建築設計事務所



山梨文化会館

見学会概要

開催日 2017年8月26日
主催 日本建築学会 関東支部 山梨支所
司会進行 進藤哲雄(日本建築学会関東支部山梨支所幹事)
参加者 52名

説明者略歴

保坂賢 ほさか・けん (写真上)

1961年 山梨県生まれ
1985年 山梨文化会館入社
入社当時より、山梨文化会館の施設管理に関与
現在、山梨文化会館 役員待遇管理局長

木村知弘 きむら・ともひろ (写真中上)

1961年 山口県生まれ
1987年 丹下健三・都市・建築設計研究所入所
2000年より、山梨文化会館の改修設計を担当
現在、丹下都市建築設計 取締役副社長

小林光男 こばやし・みつお (写真中下)

1962年 東京都生まれ
1986年 織本匠構造設計研究所入社
2015年 山梨文化会館の免震改修・構造設計を担当
現在、織本構造設計 取締役設計部長

北澤基至 きたざわ・もとゆき (写真下)

1969年 長野県生まれ
1993年 住友建設入社
2016年 山梨文化会館の免震改修・工事所長を担当
現在、三井住友建設 東京建築支店 作業所長

註

資料(新聞・パンフレット・ホームページ) 提供:山日YBSグループ
図面 提供:丹下都市建築設計, 織本構造設計, 三井住友建設



茨城県立県民文化センター



見学会概要

開催日 2017年9月7日
主催 日本建築学会 関東支部 茨城支所
司会進行 篠根玲子(日本建築学会関東支部茨城支所幹事)
(写真中下)
参加者 21名

説明者略歴

桐原武志 きりはら・たけし (写真上)

1941年 神奈川県生まれ

1965年 法政大学工学部建築学科卒業
石本建築事務所入所

2004年 芦原建築設計研究所入所

2013年 文化庁国立近現代建築資料館
主任建築資料調査官に就任、現在に至る

鈴木常広 すずき・つねひろ (写真中上)

1964年 茨城県生まれ

1983年 (財)茨城県文化福祉事業団入社

2013年 茨城県立県民文化センター施設課長に就任、現在に至る

市毛純一 いちげ・じゅんいち (写真中下)

1949年 茨城県生まれ

1968年 茨城県立水戸工業高等学校卒業
有限会社タツミ建築設計事務所入所

1978年 株式会社市毛建築設計事務所設立、現在に至る

益子一彦 ますこ・かずひこ (写真下)

(茨城支所支所長)

1959年 茨城県生まれ

1983年 武蔵野工業大学工学部建築学科卒業
三上建築事務所入所

2001年 三上建築事務所副所長

2005年 三上建築事務所代表取締役所長に就任、現在に至る

註

竣工時の写真 茨城県立県民文化センター 提供

建設当時の1階平面図 武蔵野美術大学美術館・図書館所蔵





栃木県立美術館



見学会概要

開催日 2017年9月22日
主催 日本建築学会 関東支部 栃木支所
司会進行 藤原宏史(日本建築学会関東支部栃木支所長)
参加者 33名

説明者略歴

竹山博彦氏 たけやま・ひろひこ (上)
1946年生まれ 法政大学文学部卒業
東京教育大学大学院文学研究科修了 文学修士
栃木県立美術館の開館当初学芸員
「とちぎ自由大学」創設メンバー・元講師
実践女子大学、神奈川工科大学 元非常勤講師

藤原宏史氏 ふじわら・ひろし (下)
1943年生まれ 早稲田大学理工学部卒業
藤原設計事務所代表取締役
元宇都宮市教育委員会 委員長

註

竣工時写真・図面 提供：清水建設
資料「開館時パンフレット」 提供：栃木県立美術館



群馬県立近代美術館

見学会概要

開催日 2017年10月7日
主催 日本建築学会 関東支部 群馬支所
司会進行 関口正男(日本建築学会関東支部群馬支所長)
参加者 34名

説明者略歴

星和彦 ほし・かずひこ (写真上:右)

1951年 東京都生まれ
公立大学法人前橋工科大学学長
専門 西洋建築史(英国建築史)・歴史的環境
工学博士

清水幹雄 しみず・みきお (写真中上)

1936年 東京都生まれ
1964年 井上工業株式会社入社
同代表取締役社長・会長
日本建築士会高崎支部長歴任

神尾玲子 かみお・れいこ (写真上:左)

1997年ー 群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 学芸係長
専門 西洋美術史・彫刻

出典 『建築文化』1975年1月号(彰国社)

『建築雑誌』Vol.91, No.1111、1976年8月号

※磯崎新「反建築的ノート そのⅧ」(『建築文化』1975年1月号、彰国社)

『開館四〇周年記念展 第二部 一九七四 戦後日本美術の転換点』

(群馬県立近代美術館発行、田中龍也、松下由里、佐藤聖子編・著)

『新建築』1998年7月号(新建築社)

註 104ページ写真=清水氏所蔵





大多喜町役場庁舎



見学会概要

開催日 2017年10月7日
主催 日本建築学会 関東支部 千葉支所
司会進行 小島聡(日本建築学会関東支部千葉支所幹事)
参加者 56名

説明者略歴

夏目勝也 なつめ・かつや (写真上：右の講演者)

日本大学建築学科卒業、佐藤武夫設計事務所で設計監理に携わった後、独立

日本建築家協会理事、保存問題委員会委員長、保存部会設立、部会長

DOCOMOMO Japan スターティングメンバー

大多喜町役場の保存と再生によりユネスコアジア太平洋遺産保全賞功績賞受賞

註

資料提供

大多喜町『大多喜町役場 庁舎の歴史と再生』(2014年)

千葉学建築計画事務所 夏目勝也



沿革

2005	2007	2009	2011	2013	2015	2017
	60周年					70周年
坂本功 (’04-’06)	片桐正夫 (’06-’08)	新宮清志 (’08-’10)	時松孝次 (’10-’12)	安達俊夫 (’12-’14)	長谷見雄二 (’14-’16)	井上勝夫 (’16-)

型地震への備え」

設計 —阪神淡路大震災の経験を踏まえて—

事業：関東支部地震災害調査連絡会設立

- ★2006 審査付き研究報告集発刊
- ★2007 支部創立60周年記念講演会「次世代の表現と可能性」
- ★2007 能登半島地震災害調査連絡会
- ★2011 支部共通事業講習会
- ★2013 「優秀研究報告集」へ名称変更
- 「2011年東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会」開催

- ★2007 人口減少時代のマイタウンの再生
 - ★2008 記憶の器
 - ★2009 アーバン・フィジックスの構想
 - ★2010 大きな自然に呼応する建築
 - ★2011 時を編む建築

暮らすまち

- ★2012 あたりまえのまち／かけがえのないもの
- ★2013 新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する
- ★2014 建築のいのち
- ★2015 もう一つのまち・もう一つの建築
- ★2016 残余空間に発見する建築
- ★2017 地域の素材から立ち現れる建築

「新しい構造設計」に移行

クリート構造の設計(2014年改訂)

構造の設計

- ★2011 構造骨組みの特性と解析(2017年改訂)

構造の設計(2012年改訂)

- ★2014 建築構造物の動的性状と解析

★2005 鉄骨構造の設計(2009年改訂)

- ★2017 プレストレストコンクリート構造の設計

★2006 合成構造の設計

★2007 免震・制振構造の設計(2016年改訂)

★2013 「知っておきたい建築材料・工法」初版刊行

★2008 木質構造の設計

★2013 コンクリートの調査と施工

★2009 シリーズ「建築のみかた」開始

「シリーズ」

★2009 劇空間を再考せよ

★2010 建築空間と身体

★2011 ことば写真 建築

★2012 五十嵐威暢テラコッタの新しい世界

★2013 落語と建築、長屋の暮らし

★2014 合気道と建築

★2015 演劇×建築「コミュニケーションをデザインする」

★2016 電車と駅舎 パブリックスペースのデザインを語る

★2017 東京オリンピックの時代と建築

——ポスト1964からポスト2020へ

★2006
神奈川大学横浜キャンパス

★2011
早稲田大学早稲田キャンパス

★2015
東海大学湘南キャンパス

日本建築学会関東支部年表

1947	1997	1999	2001	2003
*日本建築学会関東支部設立	50周年			
*1886 造家学会(のちの日本建築学会)設立	支部長(敬称略) 平山善吉 (’96-’98)	友澤史紀 (’98-’00)	嘉納成男 (’00-’02)	小谷俊介 (’02-’04)

- *1948 研究委員会発足
- *1948 第1回研究懇談会(のちの支部研究発表会)開催
- *1949 支部資料頒布所開設
- *支所設立
 - 1954 千葉、神奈川
 - 1955 群馬
 - 1957 埼玉、栃木
 - 1958 茨城
 - 1964 山梨
- *1995 構造デザインフォーラム開始
- *1998 震災関連特別研究報告会「首都直下」
- *1999 定例事業講習会：耐震構造の
- *2000 提案競技開始
- *2003 特別

50周年以降の課題

- *1951 設計競技開始
- *1960 支部共通事業
「全国大学卒業展示会」開催
- *1967 支部設立20周年
- *1977 支部設立30周年
- 1997 21世紀の「学校」
 - 1998 「市場」をつくる
 - 1999 住み続けられる「まち」の再生
 - 2000 新世紀の田園居住
 - 2001 子どもの居場所
 - 2002 外国人と
 - 2003 みち

*1963 「構造計算のすすめ方」初版刊行 → *2002 「学びや

テキスト全面改訂

- 2002 鉄筋コン
- 2003 基礎
- 2003 耐震

建築学会大会(関東)開催年、開催地

- 1997 日本大学理工学部船橋キャンパス
- 2001 東京大学本郷キャンパス

日本建築学会関東支部は一九四七年の設立以来、講習会、講演会、シンポジウム、見学会、各種表彰、研究会、展示会などを開催し、支所の活動やほかの支部との共通事業を含めて、幅広く事業を展開している。

関東支部独自の活動の主なものを挙げると、

- ・『東京の住宅地』の刊行およびシンポジウム、見学会の開催
- ・防火講演会の開催
- ・構造デザインフォーラムの開催
- ・『学びやすい構造設計』の刊行および講習会の開催
- ・『知っておきたい建築材料・工法』の刊行および講習会の開催
- ・「提案競技」の実施
- ・見学会「シリーズ名作をみる」の開催
- ・研究選集審査付研究報告集・優秀研究報告集の刊行
- ・若手優秀研究報告賞の創設
- ・地震災害調査連絡会講演会の開催
- ・シリーズ「建築のみかた」の開催

等々、活発な活動を継続して行っている。

この度、関東支部七〇周年を迎えるにあたり、構造テキストシリーズ「学びやすい構造設計」「建築のみかた」「提案競技」を取り上げ、活動の開始や継続において、ご尽力された先達の方々からお話を伺うことができたので、関東支部の沿革に続き、

その概要を紹介する。

設立までの経緯（日本建築学会関東支部五〇周年誌より抜粋）

日本建築学会関東支部の設立は、一九四七年一月二五日である。初代支部長は早稲田大学の古田享二教授で常議員二五名によって構成された。一八八六年日本建築学会の前身である造家学会の創立から数えて六一年目に当たる。

関東支部の誕生は、一九四六年一二月、本部の臨時総会において定款の改正が可決されてから急速に具体化したといえよう。この定款改正は、一九四五年に第二次世界大戦が終結した後、日本全国にひろまった革新的な気運と民主化運動の影響によって、日本建築学会の組織・運営などについても全般的な検討が加えられて行われたものである。名称を日本建築学会に変更したのをはじめ、目的の拡大・会員制度の改正・役員選挙権の拡張・役員組織の充実など、新しい時代に則したこれまでにない大改正で、翌年一月文部省から正式に認可された。そのなかで支部については、これを全国的組織として、地域的な事業のすべてを本部から支部に委ねる方針が盛り込まれたのである。

日本建築学会に支部が設置されるようになったのは、実は一九三〇年の定款改正からであって、関東支部が設立される一七年前のことである。全国的に会員が増加したことから地方会員の要望にこたえるためであった。その後、一九三九年頃までに東

海・九州・中国の三支部が設置されたのである。

日本建築学会は、創立以来東京に事務所を設置している。会員も東京およびその近郊に在住する者が多かったから、関東地域の事業はすべて本部の事業であり、本部の直接企画・運営に委ねられていた。当初支部設置のねらいは、地方会員にも本部の企画に参加してもらい地方における事業活動を活発にすることであったから、支部は地方に設けることに意義があり、関東地方には必要がなかったのである。一九四七年、全国を九支部制にして、地域的な事業をすべて支部へ委譲する方針を定めたことは、学会としてこれまでにない画期的なことであった。

設立の準備

一九四七年、本部では新しい定款に基づいて評議員選挙を実施した。そして内藤多伸会長の任期満了に伴って新しい評議員により副会長の岸田日出刀を選出、四月より新会長として就任することになった。本部の新しい役員の体制づくりができあがるとともに関東支部設立の準備は、関東地区出身の理事や評議員によって急速に進められていった。関東支部はお膝元に設置される支部であるから、その設立については本部としてもかなり積極的に採り上げ努力をしていた。

支部の設置は定款により評議員会の議決と総会における承認が必要である。六月二三日、午後二時から「関東支部設置に関

する懇談会」が行われ、次の方々が出席者（または出席予定者）として記録されている。

（官庁）中田亮吉、菅野誠、太田和夫、成田春人、小宮賢一、本城和彦、山口登、宮沢正雄、吉田安三郎、中井新一郎、井上正朔、天野一正

（学校）丹下健三、斎藤謙次、関野克、武基雄、谷口忠、蔵田周忠、林豪蔵

（建築士）石原信之、小林仙次、佐藤義次、園部泰文、平田重雄、荒木孝平

（業界）玉真秀雄、山本一夫、小林利助、三浦忠夫、酒見佐市、茂手木秀夫、大塚隆次、輿石武、齋藤祐義

計三四名

学会役員側の出席者と懇談内容については支部に記録がない。ただしこの懇談会の資料と思われる「関東地区会員調査表」という会員数の調査資料がある。

それによると、一九四七年六月二一日現在の関東地区会員数は四七〇八名であり、そのうち正会員は四〇四二名になっている。本部の略史によると一九四七年の会員は総数一一六八一名と記録されているから、その約四〇％が関東地区の会員で占められていたことになる。

関東支部の設置は七月二一日本部の評議員会において正式に議決され、同じ日に開催された通常総会において承認された。そして設立までの準備は理事会に一任することが決められたの

である。その後の理事会における審議状況と設立準備の進行状態は大略次のような経過をたどっている。

第六回理事会（九月一二日）…支部規程案を決議。

第七回理事会（一〇月三日）…支部役員の問題決議。

関東地区の評議員から支部長二名、常議員五名候補者を推薦してもらい、岸田会長のもとで整理し一覧表をつくる。

選挙の告示…岸田日出刀会長名で関東支部地域在住会員に支部長一名、常議員二五名の選挙投票を告示。期限は一月八日までとし、評議員の推薦した候補者（支部長二〇名、常議員五四名）の氏名一覧表を添えた。

投票結果…有効投票総数六四通を得て、支部長に吉田享二、常議員に次の二五名が当選した（学会誌一九四七年二月月号に掲載）。吉田五十八、濱田稔、佐藤武夫、田邊泰、小野薫、藏田周忠、前川國男、木村幸一郎、櫻井省吾、市浦健、齋藤寅郎、武藤清、大熊喜英、石井桂、關野克、平山嵩、鶴田明、松田軍平、渡邊要、藤田金一郎、丹下健三、土浦龜城、土岐達人、富永長治、小野二郎、以上二五名

第八回理事会…一九四七年度関東支部の予算案として三万円也を可決。

関東支部発会式

学会誌（一九四七年一〇月号）に会告として、岸田日出刀会

長名で「関東支部発会式のお知らせ」を掲載した。

関東支部発会式は一月二五日であるが、その前日の一月二四日には、会長、副会長および常務理事の臨席を得て支部役員会が行われている。

一月二五日の関東支部発会式は、「関東支部創立総会」として午後一時三〇分より日本交通協会講堂（千代田区丸の内三丁目四番地）において開催された。吉田享二支部長は出張欠席のため小野二郎常議員が代理として議長となり議事の進行を務めている。（出席者数二二一名）

一、創立経過報告 本部副会長 伊藤滋

一、役員選挙報告 同上

一、支部規程・予算案審議

議案説明 本部常務理事 亀井幸次郎

一、祝辞 会長 岸田日出刀

関東支部発会式終了後の行事として、民族学者である柳田國男の「民家史について」の講演会が開催された。

支部規程によれば常議員のなかから四名の常任幹事を選出することになっている。常任幹事は、一月二六日の役員会において次のとおり決められた。

総務…鶴田明 学術…關野克

事業…松田軍平 会計…土岐達人

その後定例の役員会が毎月一回開かれ、また幹事会もほぼ同じ頻度で行われた。

関東支部の事務局は本部と同じ建築会館内の事務室である（中央区銀座三丁目二番一九）。現在支部の職員は二名であるが、設立当初は財政的にも余裕はなく、当時本部の佐藤弓嘉書記長を中心として本部職員が兼務で業務を分掌した。

設立後の展開

関東支部が設立された一九四七年から一九四八年の頃は、戦災によって荒廃しきっていた国土の復興事業がようやく軌道に乗ろうとしていたときである。日常生活の必需物資はまだ潤沢ではなく、衣・食・住ともに統制を受け、住宅の建築資材も割当配給の制度を実施していた。したがって支部設立当初の事業は、都市や建築の復興計画をはじめ、新しい建築法規・材料・構造などの講演会・講習会・研究会などに集中していた。

支部が設立された一九四七年度は約四カ月間なので、年間としての事業計画・予算編成が行われたのは一九四八年度からである。予算として二〇万円が計上され、支部規程によって設立当初の役員はそのまま一九四九年一月まで就任した。

一九四八年は、本部が学術委員会を設置して研究発表の方式を改善したことから、支部主催の研究発表会が初めて行われた年でもある。当初は「研究懇談会」と呼ばれていたが、まもなく「研究発表会」に改められた。これを運営するために、関東支部においても「研究委員会」を設置した。研究委員会は一一

の分科会に分かれ、研究発表会のほかに、各分科会独自の講演会、見学会なども行うこととなり、支部としての事業活動に大きく貢献をした。これらの運営方針は現在の研究委員会の基礎となった。

関東支部は所属している会員数が日本建築学会の全会員の過半数を占めるマンモス支部であり、関東支部で企画した事業が本部に対する刺激剤になっている例も多い。例えば一九四九年一二月に開設した「関東支部資料頒布所」は、現在本部が直営している「資料頒布所」の前身である。一般の雑誌・図書をはじめ非売品の資料頒布や入手幹旋の事業を行い、多数の会員に重宝がられていた。また、支部では一九五〇年に懸賞設計を行い、一九五一年には本部から特別事業としての予算を得て、若い会員を対象とする設計競技を実施したが、いずれも多数の応募者があって成果を上げていた。この事業は各方面で話題になったのであって、本部が支部事業に定常的な援助を希望する声となって表れ、一九五二年度から「支部共通事業」として講習会と設計競技を恒例化し、予算を計上実施するきっかけとなった。

支部が名実ともに地域代表としての役目を果たすには、東京以外の各地域との密接な触れ合いが必要である。支部としては、一九五一年一月群馬県との共催ではじめて東京以外の地域で講演を開催したが、その後も各県において、支所が設置されるまで県や市の建築担当官をはじめ業界の協力を得て事業が続けら

れた。また毎年一回東京で行われていた通常総会を、茨城県を皮切りに一九五四年度から地方でも開催することになった。一九五四年度は関東支部として初めての支所が千葉県と神奈川県に誕生した年でもある。

現在関東支部は各県に支所をもち、合計七支所である。常議員は設立当初より五名増加し三〇名であつて、支部長、常議員および各支所長によつて役員会が構成されている。常任幹事は設立当初四名に定められていたが、その後若干名に改められ、常議員より一二名のほか、役員外より事業幹事一名を依嘱している。支部長と常議員の選挙は、支部役員選挙細則によつて行い、毎年任期を一カ年とする支部選挙管理委員会が組織される。通常総会は毎年一回であり、設立当初四月に開催するように定められたが、定款の改正などもあつて現在では会計年度終了後二カ月以内となり、おおむね五月に行われている。

関東支部における現在の会員数は二万三七〇三名（一九九七年九月一日現在）であつて、日本建築学会全会員数の約六二%を占めている。

幸い前略史刊行から二〇年を経た今は、支部会員数は五〇〇〇名余の増加をみており、事業活動の活発であつたことの証明といえよう。

学会設立一〇〇周年事業や建築会館移転事業など学会史に残る事業がこの間に見事になされた。

また、支部としては諸事業で注目されるのは研究選集の刊行

などであろう。会員の努力を高く評価し広報することの意味は大きい。さらに、建築を学ぶ学生への参加を働きかけ関東支部学生委員会の設置や卒業設計展、コンペティションなどさまざまな行事も有意義であつたと考える。

以上、支部設立の経緯（日本建築学会関東支部五〇年略史より）

五〇周年以降の活動

五〇周年以降、関東支部規程を一九九九年一月、二〇〇〇年五月、二〇一三年六月の三回改正している。二〇一三年六月の改正では、近年存在がなかつた常議員以外の幹事を廃止し、支部役員は、支部長一名・常議員三〇名以内・支所長・支部監事二名とした。

また、会員数は、二〇一七年一月時点で正会員が一万九七〇七名（学会全体・三万三六〇五名）、準会員が二五三三名（学会全体・七三三三名）、法人会員が三六一名（学会全体・七〇八名）、賛助会員が一五三三名（学会全体・二二三七名）で、合計すると関東支部会員が二万四七四名（学会全体・三万五二八三名）で、学会全体の五八%が関東支部の会員となっている。

関東支部の活動のなかから、主な事業を以下に示す。

関東支部では一九四八年に研究委員会を発足し、支部研究委員会の開催のほかシンポジウム・見学会などを企画・開催して

いる。その中でも「東京の住宅地」の刊行およびシンポジウム・見学会の開催（一九七八年度から）、「防火講習会」の開催（一九八五年度から）、「構造デザインフォーラム」の開催（一九九五年度から）などは現在も引き続き実施されている。

講習会テキストは、一九六三年に、講習会テキスト「構造計算のすすめ方」シリーズの第一巻の「構造の設計」の刊行から始まっており、本会会員をはじめ、建築構造に関係する方々を対象に、構造設計や構造計算技法の普及を図ってきた。二〇〇二年からはシリーズ名称を「学びやすい構造設計」に改め、二〇〇二年一月に第一巻の「鉄筋コンクリート構造の設計」が刊行された。以降、二〇一七年までに改訂を重ねながら一〇巻の構造テキストが刊行されている。

二〇〇〇年からは、支部独自のコンペティションとして「提案競技」を始めた。この事業は、市民の側に主体的に美しい「まち」「むら」をつくらうという意識をもってもらいたいという意味を込めて企画したもので、第一回は、茨城県真壁郡明野町を対象地として、会員を対象とした「まちづくり・むらづくりのデザインコンペティション」と、小中学生を対象にした「美しいまちなみ絵画コンクール」を内容として募集した。その後、浦安市を対象地とした第六回（二〇〇四年）からは、地元的一般市民の方を対象とした「写真コンクール」の募集を開始し現在に至っている。

二〇〇三年からは、会員の研究活動の奨励と活性化を推進す

るために、当支部研究発表会へ応募した研究報告のうち、投稿者が審査を希望するものから優れた研究成果を慎重に審査し、支部研究発表会において優秀な研究報告を行った若手研究者を表彰する「若手優秀研究報告賞」を始めた。また、一九九二年から若手研究者の発掘ならびに研究の促進を図ることを目的とし、支部研究発表会における講評・討論の結果に基づき、萌芽性・先駆性・発展性・有用性・総合性などのある研究報告を各発表部門から選出して刊行した「研究選集」は、二〇〇五年度から「審査付研究報告集」に、さらに二〇一三年度からは「優秀研究報告集」とその名称を変更した。

二〇〇三年三月に、関東支部地域における地震被害の調査活動のために「関東支部地震災害調査運営委員会」を設置し、その傘下に、関東支部内で建築物に地震被害が発生した場合に初動調査を速やかに実施することを目的とした「関東支部地震災害調査連絡会」を組織した。二〇一一年三月一日に発生した東日本大震災の際には、連絡会会員の協力により、本会の災害調査活動を円滑に立ち上げることに貢献した。

二〇〇九年からは、建築や建築の設計を俯瞰できる分野で活躍されている方をお迎えして、建築や建築設計がどのように見えるかを語っていただくことにより、建築の価値を再考する一助とする企画として「シリーズ建築のみかた」をはじめた。第一回は、二〇〇九年九月に、劇団唐組座長の唐十郎氏をお招きし、「劇空間を再考せよ」をテーマとして、劇の上演とシンポ

ジウムを開催した。その後も毎年企画を重ね、二〇一七年は七〇周年記念シンポジウムとあわせて「第九回シリーズ建築のみかた」を開催した。

二〇〇六年度・二〇一六年度には、本部の創立一二〇周年・一三〇周年の記念行事として、研究所の見学会（シリーズ名作をみる）を関東支部が企画し実施した。

二〇〇七年度には、支部六〇周年記念として講演会の開催と講演会の記録集の刊行、二〇一七年度には、支部七〇周年記念として、関東支部地域の名建築の見学会とシンポジウムを開催し、その見学会とシンポジウムの内容も掲載した記念誌を刊行した。

歴代役員

・一九九七年二月

支部長 平山善吉

常議員 小松正樹・堀田久則・富島誠司・戸田哲雄・岡田恒・

曾田五月也・古谷誠章・緑川光正・中島禎男・永井潔・渡邊秀夫・

落合千秋・戸塚晃・中村雅紀・足立守・稲田泰夫・沢田研自・神保憲二・

蜂須賀達志・藤居秀男・別所佐登志・吉田太一・江中伸広・大塚喜康・

後藤春彦・中野時衛・前田厚雄・安井譲・山本浩二・遊佐秀逸

監事 小倉桂治・伊藤一郎

支所長 山中右一・戸塚学・蜂果進・丸太操・丸山恵司・三上清一・

小池舜一

・一九九八年一月―二〇〇〇年五月

支部長 友澤史紀

常議員 堀田久則・清水豊和*一・茶谷文雄・鈴木康夫・清水五郎*二・

戸田哲雄・矢野瑞穂*三・小林志朗・浦進悟・古谷誠章・緑川光正・

坊垣和明・和美廣喜・古平章夫・山田正明・落合千秋・戸塚晃・

中村雅紀・相沢覚・高倉秀一・早田平・伊藤弘・加納修平・田中晃・

江中伸広・大塚喜康・後藤春彦・中野時衛・前田厚雄・安井譲・

山本浩二・遊佐秀逸・神田順*四・岸本孝一・小寺正孝・齋藤聰・

田中晃・二本幹夫・山本浩二・有山伸司・石川良一・大島正・小池浄一・
遠山佑二・中山實・福田俊文・割田正雄

監事 伊藤一郎・永橋進

支所長 山中右一*五・明智克夫*六・戸塚学・蜂果進・植原弘・

丸山恵司*七・岩本太郎*八・三上清一・小池舜一

*一 一九九四四まで *二 一九九五から *三 一九九八九まで *四 一九九八・二〇から

*五 二〇〇四まで *六 二〇〇五から *七 一九九六六まで *八 一九九七から

・二〇〇〇年六月―二〇〇一年五月

支部長 嘉納成男

常議員 鈴木康夫・木村智・林理*一・浦進悟・古平章夫・山田正明・

吉松賢二・上之園隆志・日置滋・阿部利裕・北川勝・桂井史朗・

有山伸司・石川良一・大島正・小池浄一・遠山佑二・中山實・福田俊文・

割田正雄・伊藤弘・加納修平・田中晃・安倍輝己・五十嵐克哉・

梅林昭智・関松太郎・寺岡勝・東端泰夫・吉田信一郎・田辺新一*二

*一 二〇〇一まで *二 二〇〇二から

監事 永橋進・伊藤一郎

支所長 明智克夫・戸塚学・蜂果進・植原弘・岩本太郎・三上清一・

小池舜一

・二〇〇二年六月―二〇〇三年五月

支部長 嘉納成男

常議員 木村智・石原和男・林理*一・吉松賢二・羽賀延好・上之園隆志・

日置滋・川端一三・中西三和・阿部利裕・北川勝・桂井史朗・加藤泰夫・

塚田茂・丸岡正夫・安倍輝己・五十嵐克哉*二・稲田和美*三・梅林昭智・

関松太郎・寺岡勝・東端泰夫・吉田信一郎・田辺新一*四・井上勇・

川瀬俊二・川元茂・竹川忍・堀富博・持田悟・柳井正・柳田武

監事 伊藤一郎・小林志朗

支所長 明智克夫・戸塚学・蜂巣進*五・信澤宏由*六・植原弘・

岩本太郎・三上清一・小池舜一

*一 11000.11まで *二 11000.7から *三 11000.7まで

*四 11001.1から *五 11001.3まで *六 11001.4から

・11001年六月―11001年九月

支部長 小谷俊介

常議員 石原和男・藤堂正喜・羽賀延好・倉斗道夫・川端一三・中西三和・

佐々木良和・時松孝次・加藤泰夫・塚田茂・丸岡正夫・川岸梅和・

高橋俊一・永富英夫・井上勇・川瀬俊二・川元茂・竹川忍・堀富博・

持田悟・柳井正・柳田武・石田道孝・磯部正・大山博・久保博道・

寒河江昭夫・翠川三郎・山下武則・若松邦夫

監事 小林志朗・伊藤一郎

支所長 明智克夫・戸塚学*一・洪忠憲*二・信澤宏由・市川毅・

岩本太郎・増澤敬・小池舜一

*一 11001.11まで *二 11001.5から

・11001年六月―11001年五月

支部長 小谷俊介

常議員 藤堂正喜・横須賀誠一・倉斗道夫・豊田史敏・佐々木良和・

時松孝次・毛井崇博・鈴木紀雄・川岸梅和・高橋俊一・永富英夫・

石橋久義・今井三雄・塩原達郎・石田道孝*一・塩川博義*二・磯部正・

大山博・久保博道・寒河江昭夫・翠川三郎・山下武則・若松邦夫・

青木俊幸・宇杉和夫・小石川正男・斎藤賢二・谷田雅広・仲江肇・

深尾仁・本多幸雄

監事 吉松賢二・小林志朗

支所長 明智克夫・洪忠憲・信澤宏由・市川毅・岩本太郎・増澤敬・

小池舜一

*一 11001.9まで *二 11001.9から

・11001年六月―11001年五月

支部長 坂本功

常議員 横須賀誠一・宮森金栄・豊田史敏・吉本健一・毛井崇博・

鈴木紀雄・大澤元毅・新宮清志・石橋久義・今井三雄・塩原達郎・

汐川孝・南部真・横田昌幸・青木俊幸・宇杉和夫・小石川正男・斎藤賢二・

谷田雅広・仲江肇・深尾仁・本多幸雄・稲井田洋二・大内富夫・

大迫勝彦・谷口元・当麻茂尚・徳田京誠・平野吉信・與謝野久

監事 小林志朗・吉松賢二

支所長 明智克夫・洪忠憲・信澤宏由・市川毅・岩本太郎・増澤敬・

小池舜一

・11001年六月―11001年五月

支部長 坂本功

常議員 宮森金栄・原孝文・吉本健一・伊勢本昇昭・大澤元毅・新宮清志・

岡田章・田村和夫・汐川孝・南部真・横田昌幸・木村博則・桜本文敏・

林田英俊・稲井田洋二・大内富夫・大迫勝彦・谷口元・当麻茂尚・

徳田京誠・平野吉信・與謝野久・尾崎俊文・小澤照彦・河津行隆・末廣康久・

塚本正己・似内志朗・濱田真・藤谷陽悦

監事 吉松賢二・小林志朗

支所長 明智克夫・洪忠憲・信澤宏由・市川毅・岩本太郎・増澤敬・

小池舜一

・二〇〇六年六月一日～二〇〇七年五月

支部長 片桐正夫

常議員 原孝文・大川三雄・伊勢本昇昭・永易修・岡田章・田村和夫・青木雅路・小松博・木村博則・桜本文敏・林田英俊・小沼康男・木崎朗・前田寿朗・小澤照彦・河津行隆・末廣康久・塚本正己・似内志朗・西本真一・濱田真・藤谷陽悦・荒井良延・大川出・黒瀬行信・小宮英孝・関野宏行・宮田多津夫・本橋健司・渡辺国宏

監事 小林志朗・吉松賢二

支所長 籠佳正・洪忠憲・大家義樹・市川毅・岩本太郎・増澤敬・渡辺正

・二〇〇七年六月一日～二〇〇九年五月

支部長 片桐正夫

常議員 大川三雄・是永健好・永易修・寺井靖人・青木雅路・小松博・有賀隆・桂豊・小沼康男・木崎朗・前田寿朗・上原茂男・

飯島亮・小林勝巳・荒井良延・大川出・黒瀬行信・小宮英孝・関野宏行・宮田多津夫・本橋健司・渡辺国宏・飯場正紀・桑名寛一・佐々木静郎・高橋良明・中川裕章・橋本修・広田直行・吉田藤子

監事 小林志朗・吉松賢二

支所長 籠佳正・福井通・大家義樹・市川毅・岩本太郎・増澤敬・渡辺正

・二〇〇八年六月一日～二〇〇九年五月

支部長 新宮清志

常議員 是永健好・渡壁守正・寺井靖人・山下清・桂豊・橋本修・川島晃・塩谷正樹・上原茂男・飯島亮・小林勝巳・永池雅人・丸隆宏・

石井雄輔・有賀隆・飯場正紀・桑名寛一・佐々木静郎・高橋良明・

中川裕章・広田直行・吉田藤子・佐藤勝久・澤地孝男・中谷礼仁・林篤・松原和彦・道江紳一・向井昭義・吉野泰子

監事 小林志朗・前田寿朗

支所長 籠佳正・福井通・大家義樹・市川毅・岩本太郎・増澤敬・渡辺正

・二〇〇九年六月一日～二〇一一年五月

支部長 新宮清志

常議員 渡壁守正・勝田庄二・山下清・渡辺秀仁・川島晃・塩谷正樹・東野雅彦・湯浅昇・永池雅人・丸隆宏・石井雄輔・川島実・野原文男・渡辺富雄・佐藤勝久・澤地孝男・中谷礼仁・林篤・松原和彦・道江紳一・向井昭義・吉野泰子・奥田覚・河合直人・近藤誠一・高口洋人・萩原一郎・林年男・福元敏之・山田真左和

監事 前田寿朗・永易修

支所長 籠佳正・福井通・大家義樹・市川毅・岩本太郎・増澤敬・渡辺正

・二〇一一年六月一日～二〇一二年五月

支部長 時松孝次

常議員 河合直人・松永茂実・渡辺秀仁・藤森智・東野雅彦・湯浅昇・中田善久・長沼一洋・川島実・野原文男・渡辺富雄・小野俊博・栗山茂樹・師橋憲貴・奥田覚・勝田庄二・近藤誠一・高口洋人・萩原一郎・林年男・福元敏之・山田真左和・阿部亮・石田雅利・石原智也・岩田司・加藤詞史・長谷川直司・濱田弘行・山田茂

監事 永易修・前田寿朗

支所長 籠佳正・福井通・大家義樹・樋口和男・岩本太郎・増澤敬・渡辺正

・二〇一二年六月一日（二〇一二年五月）

支部長 時松孝次

常議員 松永茂実・三井健郎・藤森智・柴慶治・中田善久・長沼一洋・

近藤典夫・成原弘之・小野俊博・栗山茂樹・師橋憲貴・鳴海雅人・

能勢修治・松下督・阿部亮・石田雅利・石原智也・岩田司・加藤詞史・

長谷川直司・濱田弘行・山田茂・市川一美・伊藤喜彦・大阪谷彰・

川口晋・近藤宏二・佐々木仁・森利弘・横田和伸

監事 前田寿朗・永易修

支所長 麓佳正・国吉直行・大家義樹・樋口和男・岩本太郎・増澤敬・

渡辺正

・二〇一二年六月一日（二〇一二年五月）

支部長 安達俊夫

常議員 三井健郎・木村秀樹・柴慶治・早川和男・近藤典夫・成原弘之・

一瀬賢一・三町直志・鳴海雅人・能勢修治・松下督・佐藤慎也・永廣正邦・

和田直・市川一美・伊藤喜彦・大阪谷彰・川口晋・近藤宏二・佐々木仁・

森利弘・横田和伸・奥田泰雄・河口俊郎・組田良則・齋藤仁・

田所辰之助・寺田宏・土橋稔美・中村聡

監事 永易修・中田善久

支所長 岡田成和・国吉直行・大家義樹・樋口和男・藤原宏史・増澤敬・

雨宮健一

・二〇一二年六月一日（二〇一二年五月）

支部長 安達俊夫

常議員 木村秀樹・篠崎洋三・早川和男・嶋徹・一瀬賢一・三町直志・

梅國章・橋田浩・佐藤慎也・永廣正邦・和田直・賀持剛一・野中茂・

堀川晋・奥田泰雄・河口俊郎・組田良則・齋藤仁・田所辰之助・寺田宏・

土橋稔美・中村聡・池浦友則・石井勝・鹿毛忠継・北野幸樹・進藤隆之・

豊田耕造・馬渡誠治・渡辺英彦

監事 中田善久・永易修

支所長 岡田成和・国吉直行・大家義樹・樋口和男・藤原宏史・

増澤敬*一・益子一彦*二・雨宮健一

*一・二〇〇四・四まで *二・二〇〇四・四から

・二〇一四年六月一日（二〇一四年五月）

支部長 長谷見雄二

常議員 篠崎洋三・岡本肇・嶋徹・中村充・梅國章・橋田浩・閑田徹志・

宮里直也・賀持剛一・野中茂・堀川晋・高口洋人・鉾岩崇・横川和人・

池浦友則・石井勝・鹿毛忠継・北野幸樹・進藤隆之・豊田耕造・

馬渡誠治・渡辺英彦・大西正修・菊田繁美・桑沢保夫・高橋暁・竹田将夫・

鶴田賢二・林和也・藤野敏幸

監事 永易修・輿石直幸

支所長 岡田成和・国吉直行・大家義樹・樋口和男・藤原宏史・

益子一彦・雨宮健一

・二〇一五年六月一日（二〇一五年五月）

支部長 長谷見雄二

常議員 岡本肇・小室努・中村充・手塚純一・閑田徹志・宮里直也・

鈴木康嗣・柳橋邦生・高口洋人・鉾岩崇・横川和人・石川和樹・柴田昭彦・

杉山俊一・大西正修・菊田繁美・桑沢保夫・高橋暁・竹田将夫・鶴田賢二・

林和也・藤野敏幸・亀井靖子*一・川口晋・小宮信明・佐々木聡・中島史郎・

仲宗根淳*二・西田朗・林吉彦・早野裕次郎

*一〇二五九から *二〇一五九まで

監事 輿石直幸・山田茂

支所長 岡田成和・国吉直行・大家義樹・時田芳文・藤原宏史・益子一彦・雨宮健一

・二〇一六年六月―二〇一七年五月

支部長 井上勝夫

常議員 小室努・山中新太郎・手塚純一・山本雅史・鈴木康嗣・柳橋邦生・永井香織・端直人・石川和樹・柴田昭彦・杉山俊一・尾形直樹・坂井和秀・中村晃子・亀井靖子・川口晋・小宮信明・佐々木聡・中島史郎・西田朗・林吉彦・早野裕次郎・井上諭・梅津朋岳・小山信・高橋元美・武田勤・成瀬友宏・野畑有秀・細川慎也

監事 山田茂・宇於崎勝也

支所長 岡田成和・国吉直行・関口正男・時田芳文・藤原宏史・益子一彦・雨宮健一

・二〇一七年六月―二〇一八年五月

支部長 井上勝夫

常議員 山中新太郎・篠崎洋三・山本雅史・眞方山美穂・永井香織・端直人・寺田岳彦・福井剛・尾形直樹・坂井和秀・中村晃子・金森勇樹・廣瀬浩二・宮崎博之・井上諭・梅津朋岳・小山信・高橋元美・武田勤・成瀬友宏・野畑有秀・細川慎也・小豆畑達哉・榎木靖倫・佐々木康人・高橋幹雄・谷口直英・浜田晶子・南知之・峯村敦雄

監事 宇於崎勝也・中澤真司

支所長 岡田成和・国吉直行・関口正男・時田芳文・藤原宏史・益子一彦・雨宮健一

事務局

事務長 中村武司（一九九九年三月）

野口留治（一九九九年四月―二〇〇五年九月）

斎藤喜平（二〇〇五年一〇月―二〇一〇年三月）

森脇 博（二〇一〇年四月―）

係員 酒井正純（二〇〇〇年三月）

パート 山崎由紀（二〇〇〇年四月―）

七〇周年記念事業WG

・七〇周年記念誌作成WG

篠崎洋三・寺田岳彦・永井香織・端直人・福井剛・榎木靖倫・尾形直樹・金森勇樹・坂井和秀・佐々木暁生・杉山俊一・武田勤・谷口直英・中村晃子・成瀬友宏・野畑有秀・浜田晶子・廣瀬浩二・細川慎也・南知之・宮崎博之・山中新太郎

・七〇周年記念シンポジウム実行WG

山中新太郎・眞方山美穂・山本雅史・小豆畑達哉・井上諭・梅津朋岳・尾形直樹・金森勇樹・川口晋・小山信・坂井和秀・佐々木暁生・佐々木康人・杉山俊一・高橋幹雄・高橋元美・武田勤・中村晃子・峯村敦雄

・七〇周年記念見学会実行WG

尾形直樹・坂井和秀・武田勤・中村晃子・榎木靖倫・岡田成和・長田喜樹・金森勇樹・川口晋・佐々木暁生・篠根玲子・進藤哲雄・杉山俊一・関口正男・谷口直英・時田芳文・浜田晶子・廣瀬浩二・藤原宏史・南知之・宮崎博之・山中新太郎

日本建築学会関東支部七〇周年記念誌

二〇一八年三月三〇日発行

編集著作人 一般社団法人日本建築学会関東支部

発行所 一般社団法人日本建築学会関東支部

〒一〇八―八四―四 東京都港区芝五―二六―二〇

電話 〇三三―四五六―二〇五〇

<http://kanro.aia.or.jp/>

編集協力 飯尾次郎(スベルプラーツ)

デザイン 水野哲也(Watermark)

印刷所 昭和情報プロセス株式会社

◎日本建築学会関東支部二〇一八

ご案内

本書の著作権・出版権は日本建築学会関東支部にあります。

本書より著書、論文等への引用・転載にあたっては必ず本会の許諾を得てください。
コピーも私的利用の範囲を超えることは法律で禁じられています。

日本建築学会 関東支部